校長室雑記

笑ってごらん

第 545 号　H.28.4.12 発行

～今日のことば～

夢は、目指した時から、目標に変わる。

（棋士　羽生善治）

◇◆新入生のみなさん、鳳凰高等学校入学おめでとう！　これからの 3 年間ないし 5 年間、自分力を高めるために様々なことにチャレンジし続けて欲しい。さて、この『笑ってごらん』は学校であった出来事や、私が見聞きして何となく気になったニュースや記事などを取り上げていくもの。少しでも皆の役に立てばいいなと思っている。　◆今年、九州はもとより大阪・滋賀・愛知からの入学生もいる。遠くからもこの南さつまの学校へ飛び込んで来てくれたことが大変嬉しい。特に県外（それも特に九州以外）の出身者には「鹿児島弁」が聴き取れず苦労することも多かろうと思う。難儀であろうが、当地の文化もろとも学んで欲しい。さて、入学式の式辞の冒頭で軽く触れたことなのだが、今年学校創立 60 周年を迎えるに伴い、校歌の歌詞を何となく分析（？）してみた。それぞれ学校ごとに校歌には学校の方針とか土地の自然などが織り込まれている。本校の校歌も同じである。ただ、2 番冒頭に「歴史を語る金峰に」とあるが、金峰って何？　その金峰とやらが歴史を語るとはどういうことだ？･･･おそらく県外出身者には謎のワードであるに違いない。そう思うに至り、ちと調べてみたので紹介する。　◆「金峰」とは金峰山に象徴される。先代理事長（私の父）は生前、金峰山のことを「乙女が丘」と称したことがある。本校のあるこの加世田側から見ると、金峰山は確かに乙女の寝姿に見える（右側を頭とし、胸の辺りまで）。その金峰山に伝わる神話について紹介する。天照大神の孫：ニニギノミコトが妻となるコノハナサクヤヒメ（木花咲耶姫）と出会ったのが金峰町阿多である。結婚した二人はホデリ（海幸彦）・ホスセリ・ホオリ（山幸彦）という 3 人の子供に恵まれた。このホオリの孫が初代天皇となる神武天皇である。つまり、この金峰は初代天皇の誕生につながる神の里なのである。それゆえに校歌で「清爽の気溢れ満つ」と続くのもうなづける。ともすると、金峰山の形状って、ひょっとしてコノハナサクヤヒメを表しているのであろうか？　新入生のみなさん、いずれにせよ、この南さつまの地はいわゆる「神話の里」でもあることを知っておいて欲しい。　◆さてさて、今週、新入生のみなさんは本校で生活するにあたっての様々なオリエンテーションや身体計測、検診などが続くことになる。「もう覚えられないよ！」、「今度はどこに行けばいいの？」という声も聞こえてきそうだ。校内の地理も不案内ゆえ、あちこちで「あれっ？ここはどこ？」ってことになるだろうが、近くにいる先輩や先生方に遠慮なく聞いて欲しい。しばらくは毎日気疲れしてしまって夜グッタリ、という感じの連続だろうけれど、早く友達を作り、楽しい日々を過ごそう！

～・

感謝道

◇◆上記のコノハナサクヤヒメの神話には前段がある。ニニギノミコトがコノハナサクヤヒメを妻とする際のことである。コノハナサクヤヒメの父親オオヤマツミはニニギノミコトに対し、「自分の娘を二人とももらって欲しい」とお願いしたという（姉：イワナガヒメ、妹：コノハナサクヤヒメ）。しかし、ニニギノミコトは見目麗しいコノハナサクヤヒメのみを選び妻と決めた。これにオオヤマツミは怒り、「イワナガヒメを妻とすればあなたの命は岩のように永久なものになるというのに、そうしなかった。よって、木の花のようにはかない命となることだろう」と言った。この出来事により、その後の天皇の命は神々のようには長生きできていないとされる。